

全国精神衛生連絡協議会

会報

昭和48年3月

第13号

目次

挨拶	2頁
昭和48年度精神衛生関係予算案が決定される	2頁
第20回精神衛生全国大会（於熊本市）の報告	3頁
昭和47年度理事会及び総会概要報告	5頁
全国精神衛生連絡協議会新旧役員名簿	6頁
お知らせ	7頁
(社)日本精神衛生連盟の事業計画について	7頁
第21回精神衛生全国大会の開催について	7頁
昭和46年度精神病院実態調査（作業療法）について	7頁
全国衛生主管部(局)長会議開催される	7頁
全国精神衛生主管課長会議開催される	8頁
事務局だより	
編集後記	8頁
「心の健康」紹介	8頁
お願い	8頁

ご挨拶

今回、はからずも全国精神衛生連絡協議会の会長をお引受することになりました。

見識がないとお叱りをうけるかもしれませんが、新会長の抱負などときかかれても戸迷ってしまうのが、現在の偽りのない心境です。本会の規約によりますと、「この会は、都道府県精神衛生協会又は協議会間の連絡を図り、もって精神衛生の普及発展に資することを目的とする」となっています。

このうち、前段の連絡は問題ないとしても、後段の精神衛生の普及発展となると、これは一種の社会活動ですから、本会の会員である地方精神衛生協議会の意見をきいたうでないと、具体的方針を打出すことに躊躇します。

言葉として精神衛生が用いられるようになってから、何十年にもなります。

第一期の単なる普及の時期はすでにおわり、第二期として、わが国の社会、文化的背景に適合するような、独自の発展の期待される時期にさしかかったと考えています。

昭和48年度精神衛生関係予算案が決定される

昭和48年度における予算案（政府原案）は、年末年始の休暇明けの去る1月15日閣議決定が行なわれ今国会に提出され現在審議中である。

新年度の予算案は、社会福祉に最重点がおかれ、一般会計歳出予算14兆2,840億円（対前年度当初予算比24.6%増）中社会保障関係予算は2兆1,145億円（対前年度当初予算比29%増）と大幅な増額となっている。このうち保健衛生対策費は1,995億円であり、精神衛生課関係予算はその約27%にあたる総額約533億円となっている。以下その主なものについて説明すると次のとおりである。

1. 各種研修会等の開催

(1) 精神衛生相談員資格認定講習会

昨年に引き続き実施することとし、その内容については、概ね前年に準ずる予定である。

(2) 精神病院技術職員等研修会

前年度同様日本精神病院協会に委託し、精神病院等の職員の研修をブロックごとに実施する予定である。

第一期を、啓蒙期などとよぶこともできますが、この言葉には一段高いところから、他を指導するというような官僚さを感じられますので好みません。

何れにしても、現在は、直訳や模倣を排し、精神衛生の独自の発展が期待される第二期ですから、会員である地方精神衛生協議会も、地方の社会的要望にこたえて、それぞれ特色のある精神衛生活動を展開されることを希望しています。

本連絡協議会は、情報や資料の交換を通して会員相互の連絡をはかることは当然の仕事です。しかし、これら地方の精神衛生活動が集約され、本会に対し、統一的な役割についての期待が生じれば、それを取り上げて活動することに労を惜しむものでありません。多年の懸案である精神衛生会との統合も、かゝる経過をへて解決されることを希望しています。

何れにしても、私は果敢に事を処理できる態の人間ではないので、会長就任にさいし、各方面からのご鞭達ご支援をお願いする次第であります。

（笠松 章）

(3) 児童精神医学研修会

前年度はじめて実施されたが新年度においても引き続き実施する予定である。

2. 精神衛生思想普及事業について（2,000千円）

前年度に準じて日本精神衛生連盟に委託し、厚生省、開催地県等と共催により第21回精神衛生全国大会を開催することとして目下準備がすすめられている。

開催地は石川県金沢市が予定されている。

3. 精神衛生実態調査について（16,873千円）

精神衛生の実態は昭和38年の調査以来10年を経過しており、社会構造、疾病構造等の変化に対応した施策の基礎資料を得るためあらたに全国調査を実施する予定である。

4. 医療費の公費負担について（52,777,096千円）

(1) 措置入院費

措置入院の対象人員、単価ともに実績の推移に見合った予算を計上した。

（対象人員79,560人→77,700人）

(2) 通院医療費

精神障害者の早期治療、再発増悪の防止を図るなど、適正な精神医療の促進を期するため通院医療の実績の推移に見合った対象人員の増と単価の増額を図っている。

（対象人員73,700人→88,000人）

(3) 上記のほか、沖縄県における特別措置としての同意入院患者に対する医療費の公費負担分を前年度予算に準じて計上した。

5. 精神衛生施設の整備について（295,127千円）

(1) 精神病院整備費

精神病院の施設整備費については、前年度840床に対し、新年度においては160床の増加をみており前年度同様老人、アルコール中毒、児童等の特殊病床の整備と、老朽化した木造病床の改

築に重点をおいた補助がなされる予定である。

(2) 精神衛生センター整備費

精神衛生センターの未設置県は現在14県であるが、48年度においてはB級3ヶ所分に対する補助が計上された。

6. 地域精神衛生対策について（46,257千円）

地域精神衛生対策の中心となる保健所における精神衛生事業に対し前年度に引き続き補助するものである。

とくに都市対策に必要な経費については特別対策費として配付し、その効率的運用がはかられる予定である。（保健所運営費補助金に計上）

7. その他アルコール中毒対策費として思想普及費が前年度に引き続き計上された。（3,255千円）

（精神衛生課 田村）

第20回精神衛生全国大会(於熊本市)の報告

前号でお知らせした第20回精神衛生全国大会は、関連行事とともに昨年11月8日から3日間にわたり熊本市市民会館を中心に各会場において日程どおり開催され盛会裡に幕を閉じた。その概況を報告する。

第1日（11月8日水曜日）晴

全国精神障害者家族大会 於市民会館

熊本市市民会館大ホールに全国の家族代表、回復者、医療、公衆衛生関係者など約1,000名が参加し、午前中「地方の声」として山形他8県の代表から地方の活動状況、活動の成果、行政や全家連への要望などが述べられた。

午後は大会の本番として熊本県連会長の開会のことばにはじまり、全家連理事長あいさつ、厚生大臣、熊本県知事等の励ましのことばと続き、菅又東京都立精神衛生センター長の記念講演、公開座談会等が開かれ熊本市連会長の閉会のことばで幕が閉じられた。

全国精神衛生連絡協議会理事会及び総会

理事会 13:30~14:30

於市民会館第6会議室

総会 14:30~16:30

於市民会館大6会議室

理事会、総会とも村松会長が病氣療養中のため会長代理として新井福会長が出席され猪瀬常務理事他各ブロック選出理事により先づ昭和47年度理事会

が開催され、理事会終了後直ちに総会にはいり役員改選や活発な質疑がなされるなど意義深い総会をとどこおりなく終了した。ただ総会会場が300名位収容できるところ約100名位の参加者であったため一

涙の寂しさはかくしきれないものがあつた。

今後はできる限り多く参加されるよう望まれる。

（詳細別記）

第2日（11月9日木曜日）晴
全国精神衛生センター長及び精神衛生相談所長会議並びに研究協議会

9:30~12:30

於郵便貯金会館

昭和47年度全国精神衛生センター長及び精神衛生相談所長会議は、精神衛生全国大会の一環として開催され、会議に引きつづき「精神障害者の退院を狙む諸問題」を中心に研究協議会を開催、熱心な討議が交わされた。

研究テーマ並びに発表者は次のとおりである。

「長期入院者の退院を狙む受け入れ側の要因について」

熊本県精神衛生センター長 藤田英介

「長期入院者の退院後の追跡」

熊本県立保養院院長 樺島春雄

「千葉県下の精神科医の分裂病の長期入院に関する意識調査」

千葉県精神衛生センター長 鈴木秀男

第13回全国指定精神病院長会議

於市民会館 大会議室

10:30~12:30

日精協熊本県支部長より開会の辞があり、次いで日精協会長挨拶並びに来賓挨拶として、厚生省精神衛生課長、熊本県衛生部長らがそれぞれ挨拶を行った。

引き続き、各病院から提出された議題について、溢れんばかりの熱気の中で議論がかわされ提出された議題を一応処理し、熊本精神病院長による閉会のことばで幕を閉じた。

第3日(11月9日木曜日)小雨のち曇

精神衛生鑑定医会議

於郵便貯金会館ホール

10:30~11:30

昨夜から降りはじめた雨が、今朝になっても止まず、そのためか出席者の出足も鈍く、収容能力が約300位の席も6割程度の入りのうちに、会議がはじめられた。

はじめに厚生省精神衛生課長の挨拶にはじまり、次に地元の森病院長東家暁氏の司会により「老人の精神障害の鑑定等について」のテーマを中心に説明があったのち、大阪大学医学部精神科教授金子仁郎氏による「老人の精神障害の特徴」次いで、福岡県立太宰府病院長田中邦明氏による「老人の精神障害の鑑定」について、両氏紹介のあとそれぞれ講演が行われた。

そのあと、司会者のまとめが行なわれ、出席者からの質疑を受けるなど最後まで貴重な時間を有意義に活用した感があり、むしろ時間が足りない程のうちに幕を閉じた。

大会式典 於熊本市市民会館大ホール

12:25~16:00

前夜来の秋雨が朝になってもあがらず、一時は参会者の出足も危ぶまれたが、開会間近には殆んど満席に近い状態となった。

大会式典を前に本県を代表する郷土芸能として、山鹿市役所の職員による「山鹿燈籠踊り」が披露され、本大会を一層盛りあげた。

定刻司会者による大会式典の開会と同時に高松宮殿下のご臨席が告げられた。場内がわれんばかりの拍手の中に姿を現わされた殿下には、壇上にお立ちになって参会者に一礼された後お席につかれた。

そのあと大会準備委員会会長立津政順氏による開会の挨拶があり、次いで厚生大臣(代理 大臣官房審議官柳瀬孝吉氏)熊本県知事(代理 熊本県出納長 松下 勝)熊本市長星子敏雄氏の挨拶があった。引き続き、大会会長内村祐之氏による式辞のあと高松宮殿下のおことばがあった。

次いで過去の大会を通じ、はじめて厚生大臣による精神衛生事業功労者10名(個人)及び6団体に対する表彰と、毎年行なわれている日本精神衛生連盟会長の精神衛生事業功労者32名に対する表彰がそれぞれ行われた。

表彰のあと熊本県議会議長沼田一氏並びに熊本市議会議長落水清氏による祝辞がのべられたのち、次期開催地となる石川県の精神衛生協会 会長大塚良作氏が挨拶をのべられ、最後に熊本県衛生部長伊藤蓮雄氏による大会式典の閉会の挨拶ののち高松宮殿下には、参会者一同のお見送りをうけ14時30分熊本市市民会館を後に帰路につかれた。こうして厳粛のうちにも盛会裡に大会式典の幕が閉じられた。

ここで一旦休憩ののち、岐阜大学長今西錦司氏による「人類と文明」と題する1時間半にわたる特別講演があり、氏の豊富な話題と熱弁に深い感銘をうけるなどその人柄がうかがわれる。

講演終了によって第20回精神衛生全国大会の行事全ての幕が閉じられた次第である。

昭和47年度理事会及び総会概要報告

1 昭和47年度理事会 13:30~14:30

会長挨拶(新井副会長代理)要旨

村松会長病気療養のため、会長の指名により会長代理をつとめることとなった。

本年は全国協議会が発足して10年目を迎えたのであるが、この間皆様方関係者のご支援により全国協議会も着々発展してきたところであり感謝に堪えない。また本年は沖縄県精神衛生協会の初参加を得たことは喜ばしいことである。

さて当理事会並びに総会の議題等については、去る10月3日開催された常務理事会において了承されたものであるが、詳細は順次議題審議の際事務局から説明されるのでご協力願いたい。

次いで議事に入り、

第1及び第2の議案として「昭和46年度事業報告及び決算報告」について事務局田村、石井両担当から詳細にわたり説明がなされた。

第3及び第4の議案として「昭和47年度事業計画(案)及び歳入歳出予算(案)」について事務局より詳細説明がなされた。

第5の議案として役員改選について新井会長代理より次の提案がなされた。

「役員改選について審議願う前に規約第7条第1項(1)号の規定に基づく各ブロック選出理事の紹介を行ないたい。(事務局より紹介)

次いで同条同項(2)号に基づく学識経験者として熊谷常務理事及び上村常務理事の辞任による後任として現東京都精神衛生課長中西弘毅氏と現新潟県精神衛生協会会長沢政一氏の理事就任の同意をいただくほか、国立精神衛生研究所長笠松章氏を理事として選任いたしたいので本理事会の同意をいただきたい。

なお、規約によると総会の決議を経たのち改めて理事会を開催したうへ選任するのが順序であるが、今回はその手数を省くため、事前に次のことを決議しておきたい。

ア、常務理事として中西弘毅氏及び沢政一氏を選任いたしたいこと。

イ、その他の常務理事は引き続き再任いたしたいこと。

ウ、村松会長が健康上の理由により固い辞意を表されているので辞任を了承することとし、次期会長に笠松章氏を選任いたしたいこと。」として役員改選についてはかかった結果全員一致で了承された。

第6の議案「その他」として、村松会長を辞任後

当協議会の顧問に委嘱いたしたいので理事会及び総会の推せんを得たうへ新会長の委嘱をお願いすることとしたいのでご賛同を得たい 旨新井副会長より提案され全員一致で了承された。

次いで、総会における各協(議)会の事業報告を、今回厚生大臣の表彰をうけることとなった北海道、茨城、沖縄の3協議会に依頼することが了承され16時30分予定どうり理事会の幕を閉じた。

なお、この間次のような質疑がなされたのでその主なものを概略紹介しておきたい。

問 事務局の説明によると、当協議会の予算が少ないため事業の推進が十分遂行できないようであるが、この際会費を増額してはどうか。

答 大変ありがたいご意見で是非実現してほしいところであるが会費の改定となるとなかなか難しいことが予想されるがご認識をいただいて幸いです。(田村)

問 会費の増額は、不足するから必要ということではなく、今後こいう事業を行なうために必要であるというのがスジではないか。

答 ごもっともであるが事業を今後さらに強化するには事務能力、事務処理体制が整備されなければ簡単に対処し得ない状況であるのでむしろ現在の事業を遂行するのに不足を生ずるという実態を先に考えていただきたい。(田村)

問 当協議会の事業は、日本精神衛生連盟の活動と極めて密接な関連があると思うのでむしろ協議会として今後どのような方向で事業を進めるべきであるかという基本的な考え方の確立が重要な問題である。

答 当協議会は日本精神衛生連盟の会員として連盟の活動に参画していることで、ご意見のとおりと思う。ここでご報告したいと思うが、去る10月5日に開催された連盟の理事会において、積極的な事業の推進をはかるため、新たに加盟13団体の推進者からなる企画委員会が設置され、当協議会から石原神奈川県精神衛生センター長が企画委員として参加しているため今後関連活動について検討する必要があると思う。(田村)

2 昭和47年度総会 14:30~17:00

総会は、熊本市市民会館大会議室において定刻に開催され、会長代理新井副会長の挨拶に続き、厚生省永井精神衛生課長並びに地元熊本県伊藤衛生部長の

ご挨拶をいただき、総会議長として熊本県精神衛生協会会長立津政順氏（大会準備委員会会長）が選出されて議事にはいり、理事会において決定された各議案について審議され提案どうり可決された。

なお、厚生省永井精神衛生課長の挨拶要旨は次のとおりである。

「本協議会が年を追って発展され、行政と表裏一体となり全国的規模で精神衛生事業の推進に尽力していただいて有難い、今年は永年にわたって精神衛生事業に貢献された3団体が厚生大臣表彰を受けられることをお祝い申し上げたい。

今後とも地域精神衛生対策の推進に対し一層の協力をお願いする。」

議事終了後引き続き厚生大臣の表彰を受けた3団体の昭和46年度における事業報告があり、北海道精神衛生協会兵藤矩夫氏、茨城県精神衛生協会今宮千勝氏（会長）沖縄県精神衛生協会神山茂市氏の各氏により、永年にわたる精神衛生活動の業績が披露され、満場の拍手がおくられた。ことに、昨年本土に復帰した沖縄県における精神衛生対策推進の基幹となっている協会事業の報告はきわめて感銘深いものがあった。また、報告終了後会場から活発な質疑がなされ有意義な総会の幕を閉じることができた。

全国精神衛生連絡協議会新旧役員等

47.11

区 分	前 役 員 等	新 役 員 等	現 職 等
(顧問)	内村 祐之	内村 祐之 村松 常雄	(財)神経研究所長(社)日本精神衛生連盟会長 前 全国精神衛生連絡協議会長
(役員)			
会 長	村松 常雄	笠松 章	国立精神衛生研究所長
福 会 長	新井 尚賢 天野 利武	新井 尚賢 天野 利武	東京都精神衛生協議会長 大阪府精神衛生協議会長
常 務 理 事	秋元 波留夫 台 弘 菅 修 猪 瀬 正 熊谷 長慶 上村 忠雄 浅尾 博一 亀井 清安 金子 仁郎	台 弘 菅 修 猪 瀬 正 中西 弘毅 沢 政一 浅尾 博一 亀井 清安 金子 仁郎	東 京 大 学 教 授 心身障害者福祉協会理事長 横浜市立大学教授 東京都精神衛生課長 新潟県精神衛生協議会長 大阪府精神衛生センター長 榛名病院長 大 阪 大 学 教 授
ブロック選出			
理 事			
北 海 道	渡辺 栄市 兵藤 短夫	渡辺 栄市 兵藤 矩夫	渡辺 病 院 長 北海道保健予防課長
東 北	石橋 俊実 野家 義夫	石橋 俊実 茂庭 秀高	国 見 台 病 院 長 宮 城 県 衛 生 部 長
東 海 北 陸	新福 尚武 熊谷 長慶	新井 尚賢 中西 弘毅	東京都精神衛生協議会長 東京都精神衛生課長
近 畿	堀 要 小久保 幸雄	大塚 良作 辻 林 嘉平	石川県精神衛生協会副会長 石 川 県 厚 生 部 長

中 国	天 野 利 武 浅 尾 博 一	天 野 利 武 浅 尾 博 一	大阪精神衛生協議会長 大阪府精神衛生センター長
四 国	伊 原 重 彦 久 保 拱 二	伊 原 重 彦 寺 上 正 人	慈 圭 病 院 長 広島県公衆衛生課長
九 州	川 端 正 男 近 藤 利 昭 楼 井 凶 南 男 大 庭 寛	川 端 正 雄 清 久 敏 亮 小 野 汎 上 杉 正 見	徳島県精神衛生協議会長 徳島県厚生部次長 大分県精神衛生協議会長 大 分 県 予 防 課 長
監 事	黒 丸 征 四 郎 石 原 幸 夫	黒 丸 征 四 郎 石 原 幸 夫	神 戸 大 学 教 授 神奈川県精神衛生センター長

【お知らせ】

- (社)日本精神衛生連盟の事業計画について。
日本精神衛生連盟では、昨年10月5日開催された理事会において、今後連盟としての事業を積極的に推進するため事業計画を策定し、その実施を図るための企画委員会(プロジェクトチーム)の設置を決め、加盟13団体から各1名当該委員を選出することとし、12月14日第1回企画委員会が開催され、スタートがきられた。
次いで本年1月30日開催された第2回企画委員会において次の計画(案)が決定された。
なお、当連絡協議会からは、神奈川県精神衛生センター長石原幸夫氏が企画委員として参加されている。
① 各界の指導層を目標とした雑誌を年2回発行する。
② 全国大会の在り方について、13団体の存在を明確にし(P.R)各都道府県衛生主管部(局)を中心に民生、教育、労働関係方面にも協力を求める。
③ 大会の行事として13団体共同で“精神衛生活動をめぐって”をテーマとした会合をもつこととして厚生省及び開催県に申し入れる。
④ 連盟としての会館建設について検討する。
概ね以上のことが決定され、理事会の承認を経たうえ実施の運びとなることが予定されている。
- 第21回精神衛生全国大会の開催について。
昭和48年度第21回全国大会は石川県金沢市において11月7日(水)~9日(金)にわたり、関連行事とともに開催されることとなっており、目下石川県において種々の準備が進められている。
- 昭和46年度精神病院実態調査(作業療法)について。
昭和47年11月7日調査の概要が発表されたが、この調査は全国精神病床を有する病院(単科病院・併設一般病院)を対象に職員の状況、作業療法の実施状況、作業療法従事職員数、調査日当日延受療患者数、作業患者の報奨の有無等についての施設調査と、患者の診断別病院内・病院外作業療法の実施状況並びに報奨の内容等についての患者調査の両者について調査されたものである。
調査結果の概要については、昭和47年11月29日の官報(資料版)に掲載されているので参照されたい。
- 全国衛生主管部(局)長会議開催さる。
例年開催される全国衛生主管部(局)長会議は本年は去る2月1日全国47都道府県・9指定都市の衛生部(局)長が出席され、厚生省大講堂において開催された。
会議は、9時30分齋藤厚生大臣の挨拶にはじまり、午前は公衆衛生局、薬務局、保険局午後は環境衛生局、医務局、児童家庭局、統計調査部、社会局の順に各々説明事項(昭和48年度予算案)指示事項について説明がなされ、最後に協議(質疑応答等)があって会議が終了した。
公衆衛生局関係については、加倉井局長から48年度における公衆衛生行政推進の基本方針、指示事項について、柳瀬審議官から48年度予算案の説明がなされた。
精神衛生課関係の指示事項ならびに連絡事項は概ね次のとおりである。

○指示事項

「精神衛生対策の推進」

- (1) 医療保護の充実 精神障害者に対する医療保護の充実に必要な措置を講ずるとともに、とくに通院医療制度の普及に努められたい。このため精神衛生センター、保健所等による地域精神衛生対策の強化を図り、また人権問題等に係わる問題が散見される状況にかんがみ、法の適正な運用に努められたい。
- (2) 精神病院の管理運営の適正化及び事故防止対策の強化 精神病院の適正な運営管理をはかるため、調査、指導を強化するとともに、必要に応じて抜本的に立入調査を実施されたい。とくに事故防止、火災予防については積極的に指導されたい。
- (3) 精神衛生実態調査の実施 近年における社会環境等の変化に対応した適切な施策の推進をはかるため、本年度において全国的な実態調査を行なうこととしているので実施にあたっては十分な協力を願いたい。

○連絡事項

- (1) 精神病院等施設整備について 老人、児童、アルコール中毒等の特殊病棟の新增設及び火災防止対策の根本的施策として木造病棟の耐火施設への改築に重点をおいて優先的に整備する。
- (2) 研修会について 児童精神科医研修会、精神病員職員、優生保護指定医研究会を昨年に引続き実施する。
- (3) 精神衛生センターにおけるデイケア事業の実施 本年度においては、A級3ヶ所分の追加が認められたので、昨年からの3ヶ所と合わせA級6ヶ所について実施する予定である。

5. 全国精神衛生主管課長会議開催される。

全国精神衛生主管課長会議は前年に準じて去る3月6日厚生省5階講堂において開催され、与えられた約2時間にわたり説明や質疑が行なわれた。

精神衛生課による説明は概ね全国衛生主管部局長会議で示された事項の具体的内容にわたるものであった。会議の概要は次のとおりである。

会議は防疫主管課長会議のあと午後3時30分に開会され、永井精神衛生課長の「昭和48年度精神衛生事業の一般方針について」の説明に続いて「昭和48年度精神衛生課予算及び予算の執行について」「昭和48年度精神衛生業務内容及び連絡事項について」「精神衛生関係事務指導監査について」「精神衛生

実態調査について」それぞれ担当官の説明があり、さらに国立精神衛生研究所の行なう「昭和48年度精神衛生技術研修」について精神衛生研究所柏木部長から説明があり、最後に質疑応答がなされ、5時過ぎ閉会となった。

質疑の大半は実態調査に関することで、とくに円滑なる実施についての経費を含む配慮についての要望が多く出されたほか、本年1月より適用されることとなった老人福祉法の一部改正による老人医療費支給制度の発足に伴う精神衛生法との関連に関する質疑もなされた。

〔事務局だより〕

編集後記 今回は役員の改選等もあった関係で発行が遅れたことをお詫びします。

またなんとか年度内に3回発行したいと思っておりましたが、財政事情が許さないため2回にとどまっていたこともご了承願います。

内容についてはできるだけ参考になることを詳細に記載したいのですが紙数にも限度がでてきますのでやむを得ませんでした。

今後は新会長のご方針と会員各位のご要望に添うよう編集したいと思いますので意見等多数寄稿されることを望みます。

「こころの健康」(株)社会保険出版社発行について紹介

本誌は、国立療養所長秋元先生が監修され、厚生省精神衛生課の編集になるもので、地域における精神衛生活動のPR資料として活用され一般市民の健康生活のマニュアルとなるよう各都道府県、保健所、精神衛生協(議)会等の事業活動に大いに利用していただきたい。

定価は1部45円であるが沢山ままとすると割引きされることになっている。

会費納入について

毎年事務局で苦勞しているのが会費の納入が遅れることですので各協(議)会とも可能な限り早い時期に納入されるようとくにお願いします。